

子育て支援施設「嘉川子ども館しゅっぽぽ」の使われ方

既存資源を活用した子育て支援施設整備に関する研究 その2

準会員 ○神崎暁子*1 正会員 中園真人*2, 正会員 山本幸子*3,
正会員 村上和司*4, 準会員 佐伯和也*1, 正会員 吉浦温雅*3

少子化, 子育て支援, 民家改修

1. 序論

本研究は、既存建物を活用した地域密着型子育て支援施設に着目し、空き家や空き店舗が用途変更を行い子育て施設に転用される場合に、どのような改修と空間の使われ方が実現されているかを考察した上で、既存建物活用型子育て施設を展開していくための計画課題を明らかにすることを目的としている。

その1では、全国における「つどいの広場」事業実施の現状と、山口県山口市における事業の取り組み状況について把握した。また既報¹⁾では、山口市の単独事業である「地域型つどいの広場設置助成事業」の事業概要と実施事例「嘉川子ども館しゅっぽぽ」の開設までの流れや運用形態・助成内容について分析を行なった。

本編では、農家型住宅を子育て施設に転用した「嘉川子ども館しゅっぽぽ」(写真1)を対象に、改修内容と空間の使われ方を明らかにした上で、夏季と冬季における使われ方調査結果を元に、活動プログラムと活動場面の分析を行い、民家型子育て支援施設としての改修及び使われ方の特徴と課題を明らかにする。

2. 調査概要

調査内容は、①家具配置図の作成、②活動場面記録調査である。家具配置図は、事前に平面図の実測調査を行い、平面図上に家具配置を記録する。活動場面記録調査は、施設内を終日(午前9時から午後5時)5分間隔で利用者及びスタッフの行動観察調査を行い、行為内容



写真1 子ども館しゅっぽぽ外観

及び行為場所を配置図上に記録する。

調査は平成18年2月21日～3月2日(冬季調査)及び8月22日～9月1日(夏季調査)の計12日間に渡って行った。

3. 改修内容と居室の使われ方

3-1 改修内容

家具配置図を図1に示す。主な改修内容は、屋根瓦の葺き替え、座敷・次の間・6畳和室1の東面サッシ戸の取替え、トイレの簡易水洗化と和式便器の撤去及び洋式便器の設置、玄関1へのアプローチ部のフェンス設置、砂場の新設である。内装は一部壁と天井が塗り替えられ、押入れの内部は全て張りかえられている。老朽化した敷居は上から板を張り補修をすることで費用が抑えられ、改修費は280万円である。また、敷地西側に倉庫が建てられていたが、50人のボランティアによって解体し、駐車場として利用されている。

既存平面構成の変更や増築は行なわれず、4つ間取りの座敷は建具を撤去することにより空間が拡張されてい

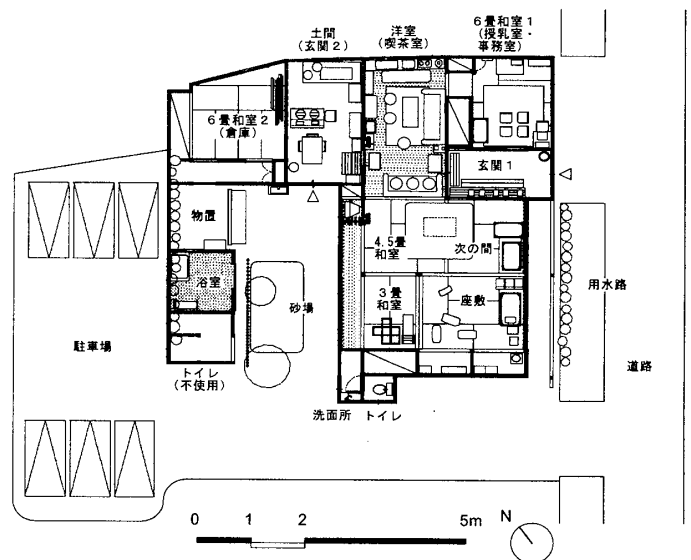


図1 家具配置図

Case Study on the Utilization of the Child-Care Support Facility "Shuppoppo" in Yamaguchi City
A Study on the Renovation of the Existing resource for the Facilities to support the bringing-up of children (Form 2)

NAKAZONO Mahito, YAMAMOTO Sachiko, MURAKAMI Kazushi, SAEKI Kazuya, KANZAKI Satoko, YOSHIURA Atsumasa

る。また建築当事、中庭を挟み建物東側にトイレが設けられていたが、その後所有者により母屋部分に増築されている。そのため、建物東側のトイレは使用せず、母屋部分のトイレを改修し使用されている。

3-2 居室の使われ方

既設の玄関が道路に面しているため、新たに設けられた母屋東面底部分が玄関1への動線になっている。玄関1の板間部分を利用して、子育てに関する情報誌等を常設し、利用者が自由に閲覧できる。駐車場からのアプローチには土間部分(玄関2)が利用され、扉付近にはベビーカー置き場や、履き替えスペースが確保されている。

玄関1、2から動線上利便性の高いと考えられる洋室は、ソファが2脚置かれ、開館中のスタッフの主な居場所、シンクがしつらえられているためコーヒーやおやつ準備や、また来客がある場合もここで対応しており、喫茶室に位置づけられている。喫茶室の奥の6畳和室1は、事務書類やパソコンを置き事務空間として利用するとともに、他の部屋に比べると閉鎖的であることから、授乳室としても兼用されている。

建具が撤去された和室4部屋は、主に子供の遊び空間として使われている(写真2)。特に座敷はおもちゃケースが置かれ、東面の床の間には本棚があるため、遊び道具がここにまとめられている。西面の床の間は暖房器具が設置されている。座敷と次の間にはベビーベッドが備えられ、子供が昼寝をするとき等に利用されている。4.5畳和室と次の間の間には昼食時・おやつ時に座卓が並べられ、利用者が集まり団らんしながら食事をする場である。午前中に部屋の隅に立てていた座卓を置き、終日そのままの状態、食事や母親同士の会話の間にも利用されている。冬季は畳の上に電気カーペットが敷かれている。

屋外は中庭に砂場が設置され、夏季はプール遊びができるよう工夫されており(写真3)、それ以外の外部空間は車の移動や駐車場に使われている。

4. 夏季と冬季における活動場面の分析

4-1 利用者数

夏季・冬季の調査期間中の来館者数をそれぞれ表1・2に示す。人数の平均を見ると、夏季では午前中・昼食



写真2 4.5畳和室から座敷を見る 写真3 砂場

時・午後共に母親は5-7人、子供が8-10人の利用が見られるのに対し、冬季では午前中・昼食時と午後の人数に差が見られ、午前中・昼食時は母親が2-3人、子供が3-4人に対し、午後は母親が7人、子供が9人と、午後からの利用が増えているのが特徴である。それに対してスタッフも、夏季と比較して冬季の人数が少なくなっていると考えられる。

以下では、夏季と冬季の平均的な人数に近い日を最も一般的な使われ方が展開されている日として抽出し、活動場面の特徴について比較分析を行なう。夏季については、さらに屋外でプールの場面が見られる日を条件に加えて選んでいる。

4-2 夏季と冬季における活動場面の比較

プログラムは特にないが、開館時間は夏季が10-16時、冬季が10-15時30分までで、午前中のおやつ・昼食・午後のおやつの際は集まって食べる。昼食時に自宅に帰って食べる利用者もいる。おやつ・コーヒー代として家族一日100円を利用料としている。

特徴的な活動場面として、①利用者が来る前のようす、②午前中の遊びのようす、③昼食時、④午後の遊びのようす、を図2・3に示す。

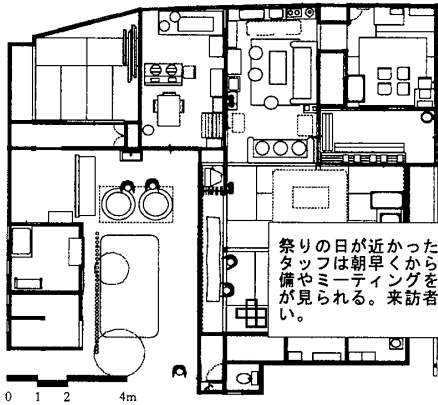
表1 夏期調査日の来館者数

調査日	母親	子供	スタッフ	ボランティア	来客	
8月22日	午前中	6	9	3	1	
	昼食時	5	8	3		
	午後	4	4	6		
8月23日	午前中	9	11	7		
	昼食時	12	12	5		
	午後	10	11	6	1	
8月25日	午前中	2	3	11		
	昼食時	2	3	4		
	午後	6	8	6	15	
8月29日	午前中	3	6	4		
	昼食時	1	4	5		
	午後	3	8	6		
8月30日	午前中	6	11	4		
	昼食時	4	7	3		
	午後	9	14	4		
9月1日	午前中	13	19	5		
	昼食時	11	15	4		
	午後	14	20	6		
平均	午前中	6.5	9.8	5.7	0.0	0.2
	昼食時	5.8	8.2	4.0	0.0	0.0
	午後	7.7	10.8	5.7	2.7	0.2

表2 冬期調査日の来館者数

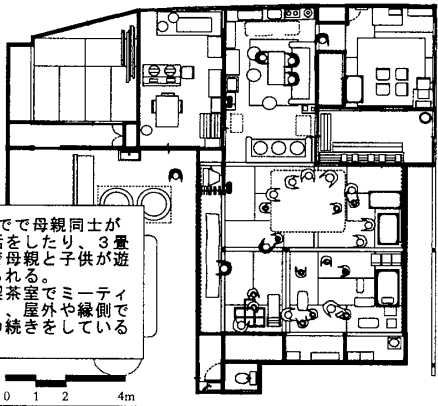
調査日	母親	子供	スタッフ	ボランティア	来客	
2月21日	午前中	4	6	2		
	昼食時	3	5	2		
	午後	4	6	2		
2月22日	午前中	3	5	2		
	昼食時	1	1	2		
	午後	4	8	3		
2月24日	午前中	2	2	2	21	
	昼食時	5	6	3		
	午後	9	10	2		
2月28日	午前中	1	1	2	1	
	昼食時	1	1	2	1	
	午後	5	5	4	4	
3月1日	午前中	4	6	3		
	昼食時	6	8	3		
	午後	9	11	4		
3月3日	午前中	2	3	3	2	
	昼食時	4	6	3		
	午後	13	18	3		
平均	午前中	2.7	3.8	2.3	0.2	3.8
	昼食時	3.3	4.5	2.5	0.2	0.0
	午後	7.3	9.7	3.0	0.7	0.0

1.利用者が来る前のようす 9:30



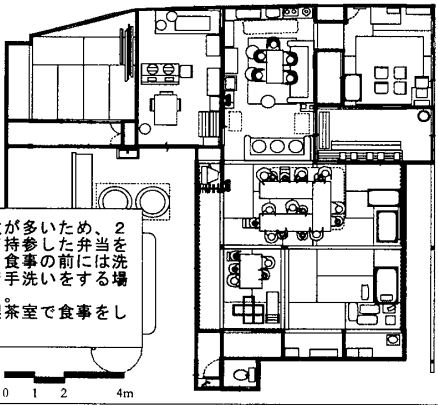
祭りの日が近かったため、準備は朝早くから砂場を準備やミーティングが見られる。来訪者はまだない。

2.午前中の遊びのようす 11:25



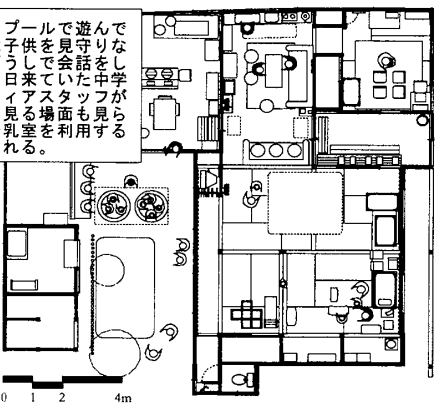
4.5畳和室2で母親同士が輪になり会話をしたり、3畳・6畳和室で母親と子供が遊び場が見られる。スタッフは喫茶室でミーティングをしたり、屋外や縁側で祭りの準備の続きをしている。

3.昼食 11:55~12:20



この日は人数が多いため、2箇所に分けて持参した弁当を食べている。食事の前には洗面所に並んで手洗いをしている。スタッフは喫茶室で食事をしている。

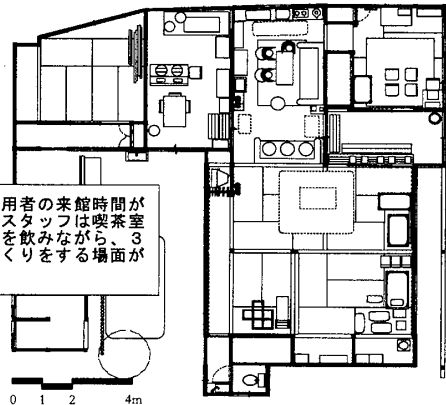
4.午後の遊びのようす 14:45



子供が砂場のプールで遊んでいる。母親は子供を見守りながら、母親どうしで会話をしている。この日に来ていた中学生のボランティアスタッフが子供の様子を見られる。また授乳室を利用する利用者も見られる。

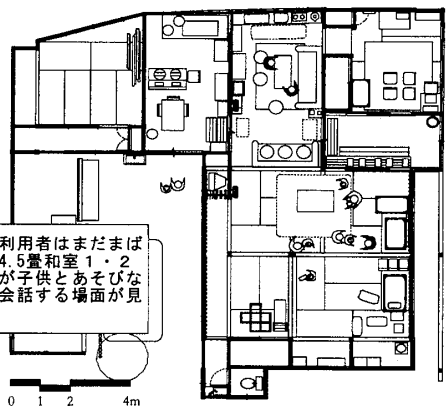
図2 夏季の使われ方

1.利用者が来る前のようす 10:30



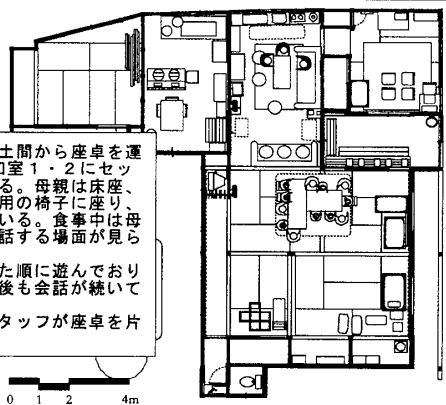
夏に比べ利用者の来館時間が遅いため、スタッフは喫茶室でコーヒーを飲みながら、3月の飾りづくりが見られる。

2.午前中の遊びのようす 11:40



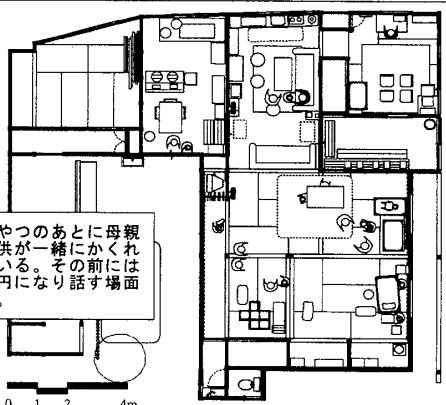
この時間、利用者はまだまばらである。4.5畳和室1・2でスタッフが子供とあそびながら母親と会話する場面が見られる。

3.昼食 12:05~12:25



スタッフが土間から座卓を運んで4.5畳和室1・2にセッティングする。母親は床座、子供は子供用の椅子に座り、食事をしている。食事中は母親同士で会話する場面が見られる。子供は食べた順に遊んでおり、母親は食後も会話が続いている。その後、スタッフが座卓を片付ける。

4.午後の遊びのようす 14:50



この日はおやつあとの母親が提案して子供が一緒にくねんぼをしている。その前には母親同士が円になり話す場面も見られた。

図3 冬季の使われ方

利用者が来る前のようすは、夏季は開館前からプールの準備やミーティングが行なわれているが、夏季に比べ冬季は来館時間が遅いため、開館後もスタッフは喫茶室でコーヒーを飲みながら手仕事をすることが見られる。

11時台になると、夏季では母親9人、子供11人が来訪しており、4つの和室が全て使われている。次の間と4.5畳和室では母親同士が輪になり会話を楽しむ場面や、座敷では母親と子供と一緒に遊び場面が見られる。一方で冬季は母親が3人、子供が5人と来訪者が少なく、次の間でスタッフが子供と遊びながら母親と話す場面が見られ(写真4)、喫茶室と次の間以外は使われていない。

昼食時になると、夏季は母親と子供で計24人と人数が多いことから、次の間・4.5畳和室・3畳和室に座卓が2卓置かれ、別れて食事をしている(写真5)。母親は床座で、子供は子供用の小さな椅子に座って、持ち寄った弁当を食べる。冬季は14人と少ないため、次の間・4.5畳和室にて1卓で集まり食事をしている。ここには冬季中は床に電気カーペットが敷かれているため、ここで食事をしているが、夏季と冬季で違いはなく、スタッフが食事をしている喫茶室から近く、飲み物の用意にも便利が良いためであると考えられる。また、食事中に母親が喫茶室のスタッフと会話をすることが見られる。

午後には、夏季では子供6人が砂場のプールで遊んでおり、母親はベンチに座って子供を見守りながら、母親同士で会話をしている。またプールで遊んでいない子供たちは、屋内で母親と遊んでおり、授乳室を利用する利用者も見られる。一方冬季では、終日屋外で遊ぶ場面は見られず、この日は午後から母親9人、子供11人に利用者が増えたため、母親と子供と一緒にかくれんぼをしている場面が見られる。また、3畳和室に母親同士が円になり、子育てに関する会話を楽しむ場面も見られる。

以上から、夏季と冬季で利用人数に大きな違いが見られ、特に冬季は午前中から昼食時までの利用が少なく、昼食を自宅で食べてから来訪する利用者が多いと考えられる。人数の違いにより、居室の使われ方にも差異が見



写真4 朝の場面 (冬季) 写真5 昼食の場面 (夏季)

られ、人数の多い夏季では、終日4つ間取りの和室全体が使われており、人数の少ない冬季では、次の間が使われる頻度が高く、喫茶室から最も離れている座敷の使用が少ない傾向が見られる。

一方で、夏季・冬季に共通して、喫茶室に隣接する次の間・4.5畳和室に、母親を中心に昼食時や、母親同士の会話の場面が見られることから、利用者はスタッフが作業をする喫茶室に近い空間に滞在していることが分かる。

5. まとめ

本編では、山口市「嘉川子ども館しゅっぱぽ」を対象に、改修内容と空間の使われ方、夏季・冬季での活動場面の比較を行なった。得られた知見は以下のとおりである。

1) 改修は屋根の葺き替え、老朽化した内装の改修、トイレの簡易水洗化が中心で、民家の子育て支援施設として転用しているものの、既存平面構成の変更は行なわれていない。建具を撤去して空間を拡張することにより子育て施設として必要な空間を確保していると言える。

2) 空間の使われ方は、夏季と冬季で利用者数により違いが見られるものの、共通して母親はスタッフが作業をする空間に隣接する場に滞在する傾向があり、内部空間は建具が撤去されているため、喫茶室にいるスタッフと次の間にいる母親が会話をすることができる。そのため利用者はスタッフを常に身近に感じられる点で、利用者は安心して子供を遊ばせながら母親同士の交流を図ることができ、民家が地域密着型子育て支援施設としての有効に活用されていると言える。

今後は空き店舗や空き施設を子育て支援施設として活用した事例の分析を行い、建築形態の違いによる子育て支援施設の特徴を考察する予定である。

謝辞

本研究を行なうにあたり、「嘉川子ども館しゅっぱぽ」スタッフの方々、利用者の方々には、度重なる調査にご協力いただきました。末尾ながら記して謝意を表します。

参考文献

- 1) 山本幸子、村上和司、吉浦温雅、盆子原和也、青沼優、中園真人：山口県における改修・活用助成事業とモデル事例 民家を活用した社会福祉施設整備に関する研究 その1, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第29巻, pp.541-544, 2006.3

*1 山口大学工学部感性デザイン工学科

*2 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

*3 山口大学大学院理工学研究科 修士(工学)

*4 山口大学大学院理工学研究科 修士

*1 Collage Student, Yamaguchi Univ.

*2 Professor, Yamaguchi Univ., D.Eng.

*3 Doctoral Course, Yamaguchi Univ., M.Eng.

*4 Graduate, Yamaguchi Univ.